

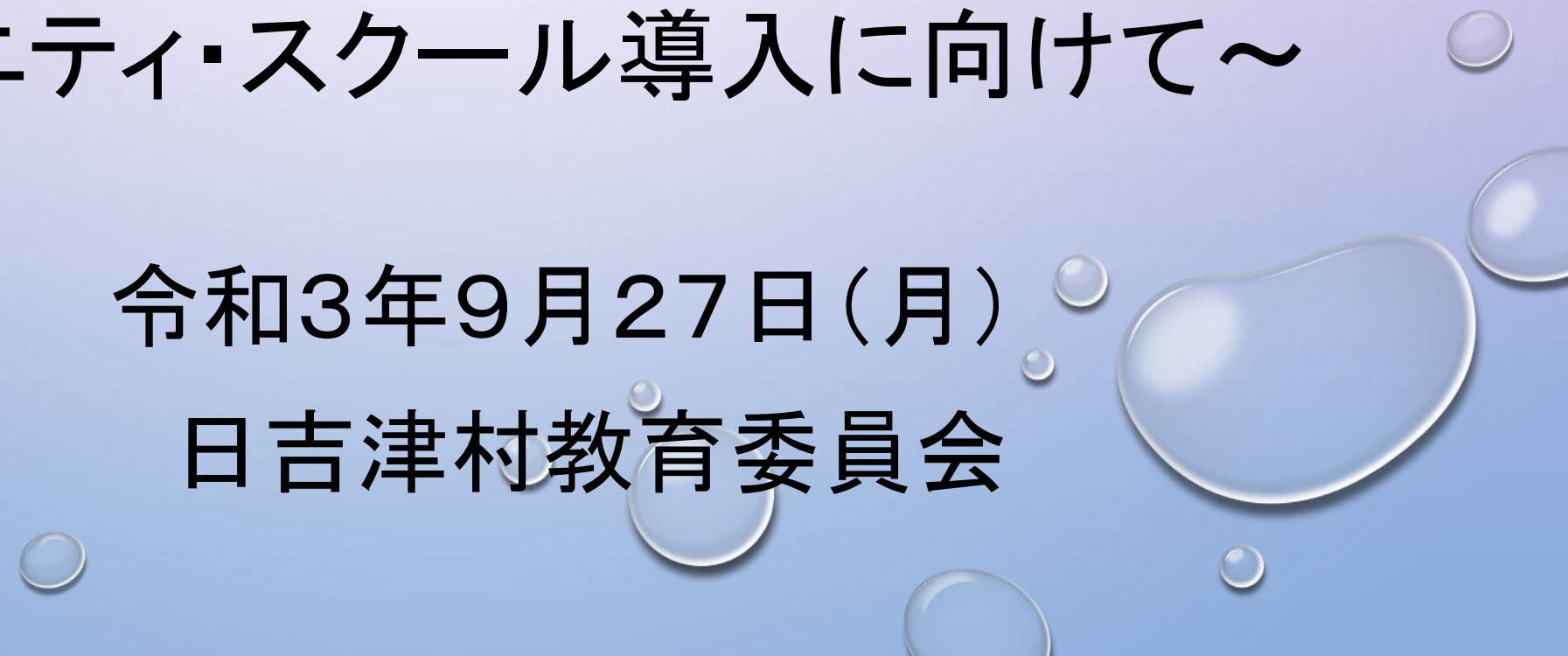


地域とともにある学校づくりをめざして

～コミュニティ・スクール導入に向けて～

令和3年9月27日(月)

日吉津村教育委員会



はじめに

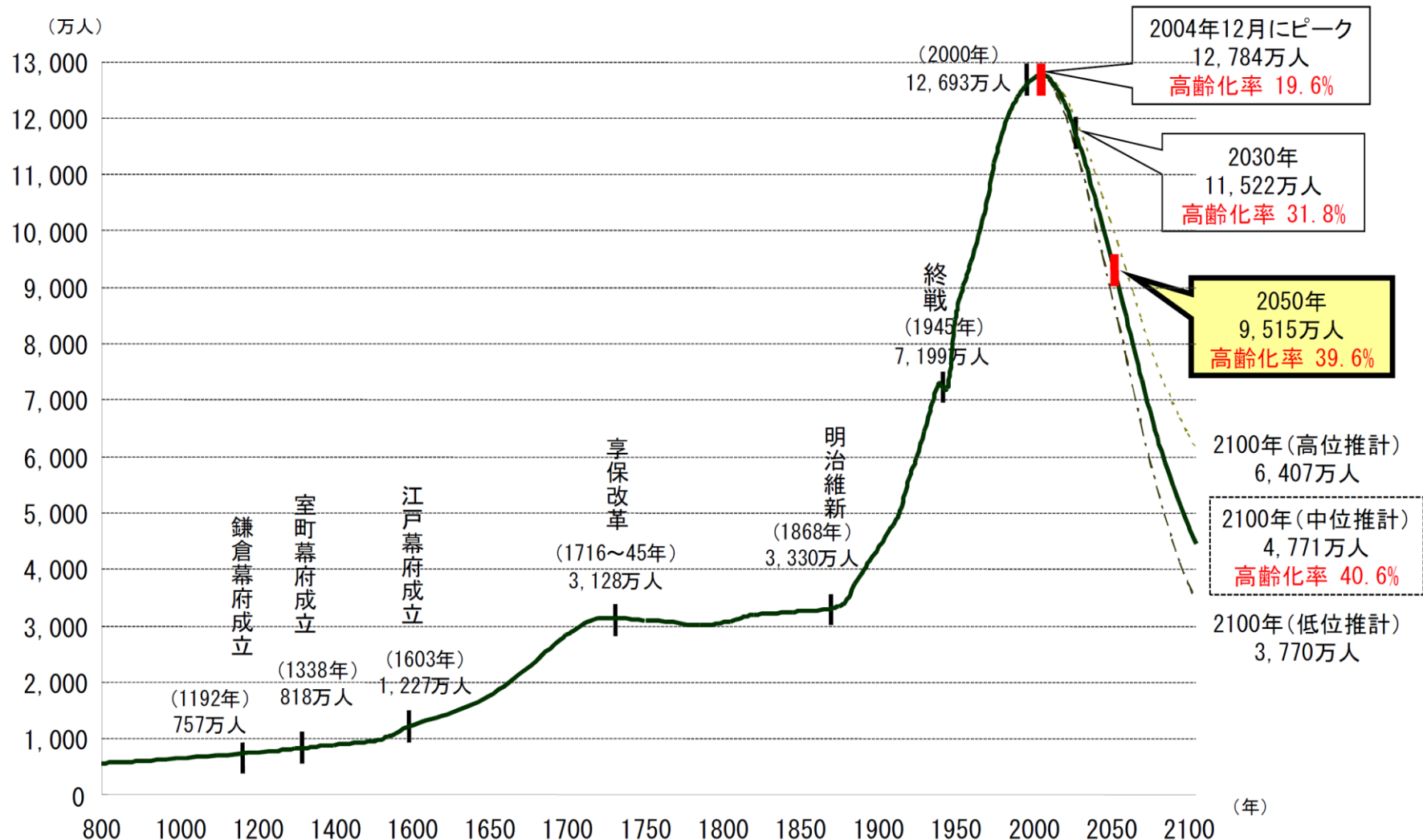
近年、急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化、多様化しています。

学校では、様々な問題への対応が必要な状況となっています。

地域においても、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化等により地域社会における支え合いやつながりが希薄化することによって、地域社会の停滞や教育力の低下などが指摘されています。

我が国における総人口の長期的推移

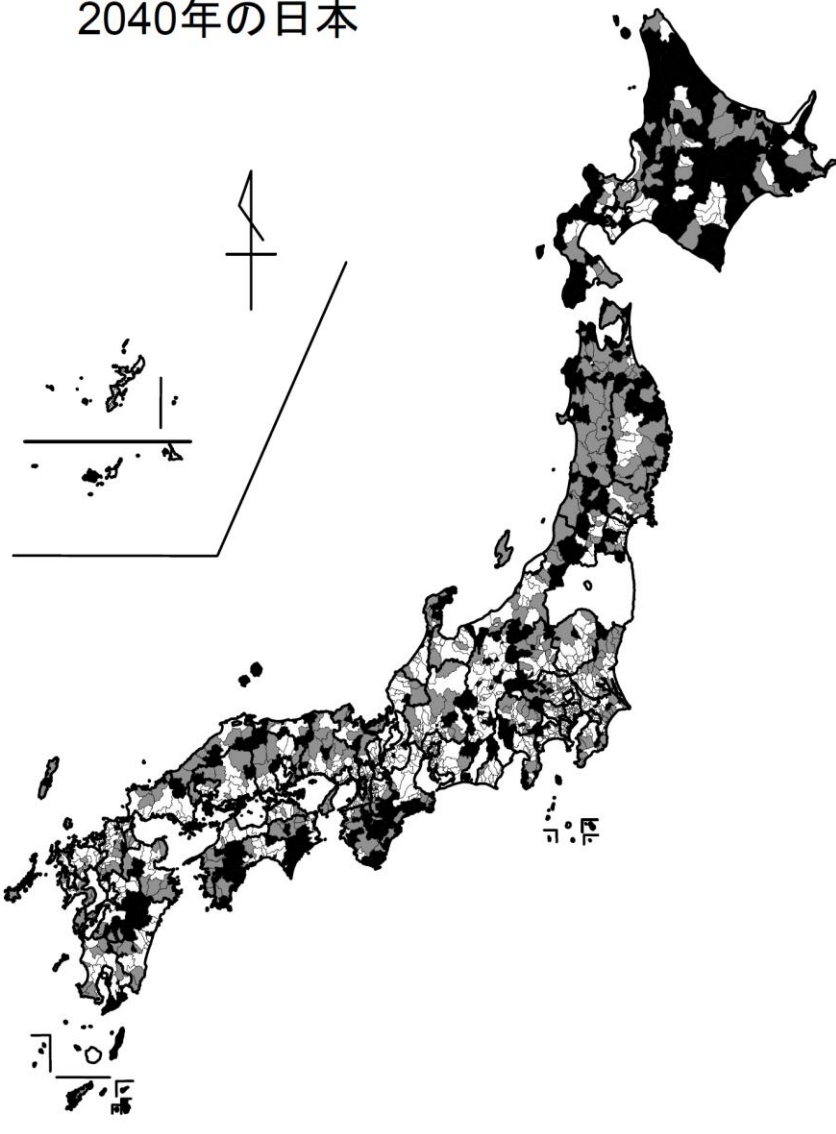
○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく可能性。
この変化は千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

地方消滅の危機

2040年の日本



消滅可能性都市

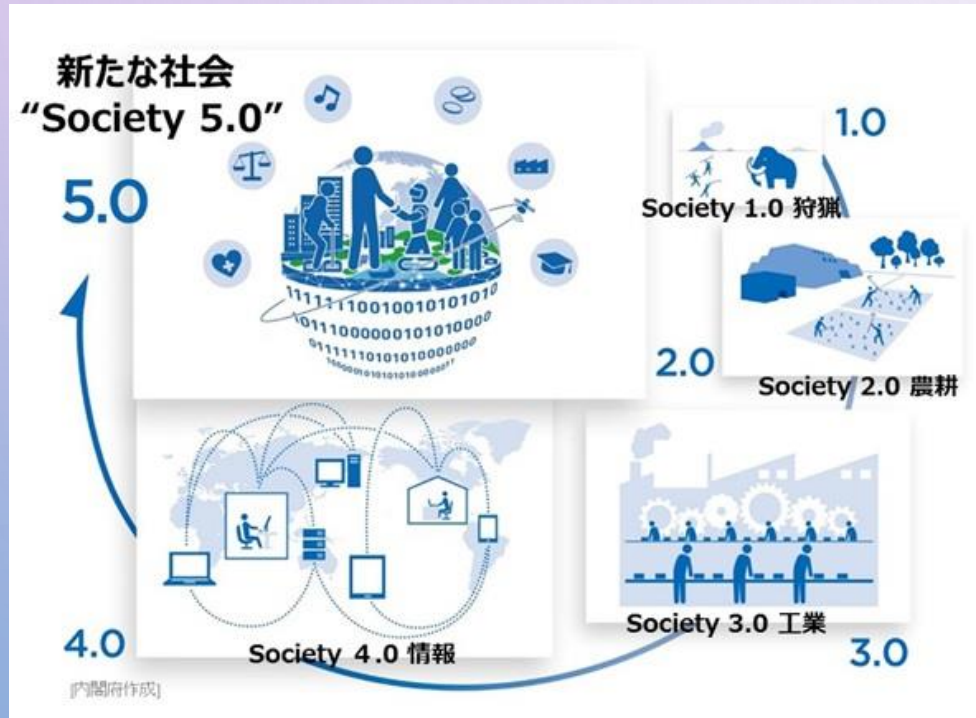
- 人口移動が収束しない場合において、2040年に若年女性が50%以上減少し、人口が1万人以上
- 人口移動が収束しない場合において、2040年に若年女性が50%以上減少し、人口が1万人以下

**全国約1800市町村中、
896が消滅するおそれ！**

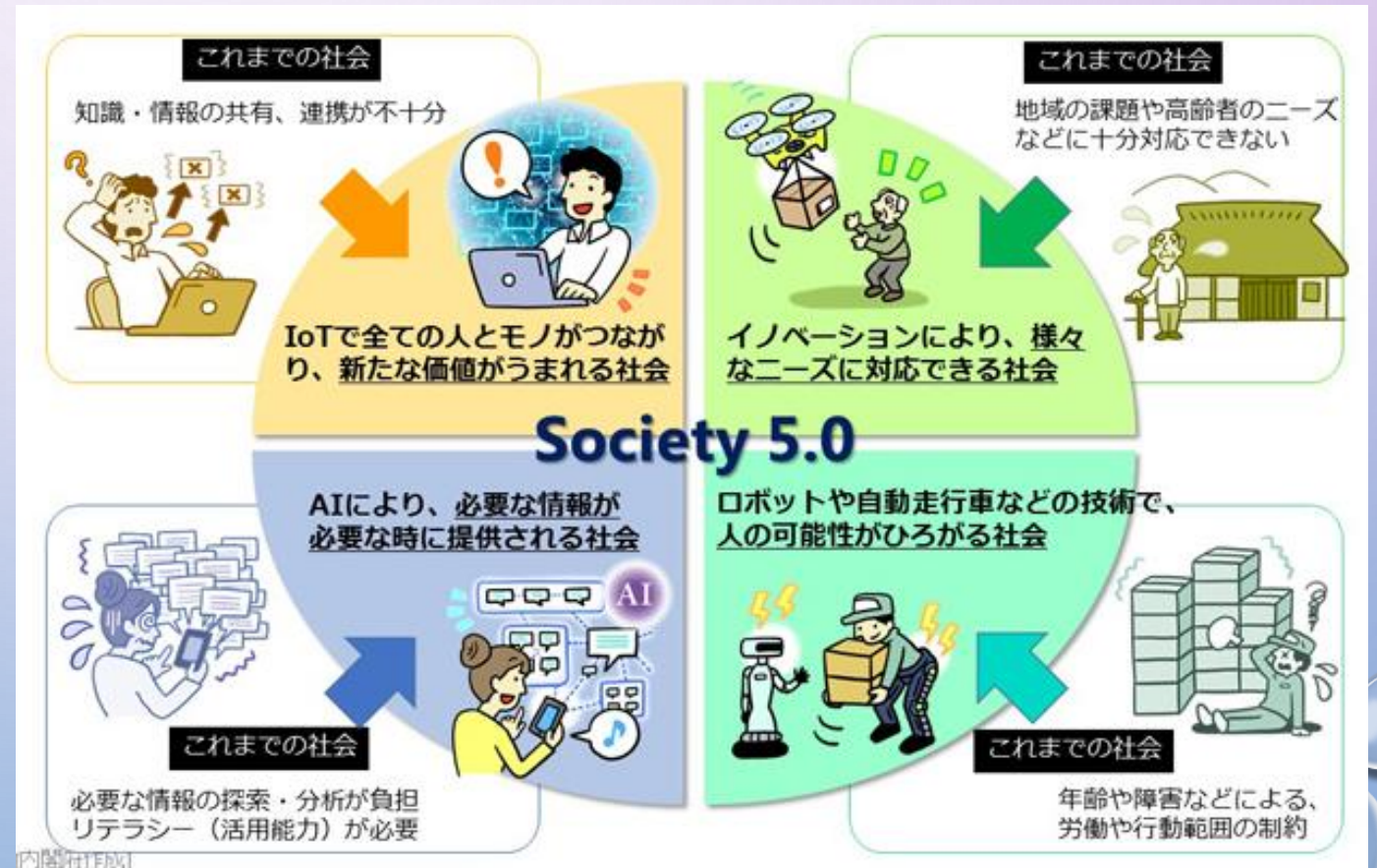
- 学校が廃校になり、人と人とのつながりがなくなった。
- 今、自治会に入らない人が増加
→ 誰がどこにいるかわからない！
※災害の時、とても困る！（東日本大震災）

これまでの社会、これからの社会

- 進化した人工知能(AI)が様々な判断を行ったり、身近なものの動きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来(第4次産業革命)が、社会や生活を大きく変えるとの予測。
- 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会である Society 5.0の到来が予測。



出典 内閣府ホームページ



地域や家庭がもっていた教育力低下の背景



地域の人間関係が希薄化し、
近所づきあいや親戚づきあい
も減少



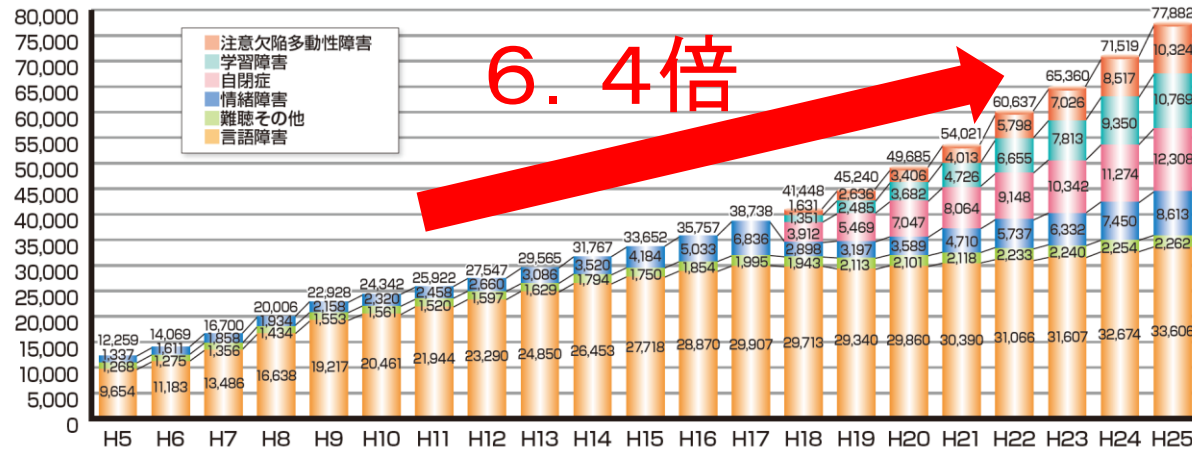
少子化＝きょうだい・地域の子どもの減少
※子どもたちが「人と関わる」ことに自然に
慣れ、「人と関わりたい」思いを自然に感
じ取っていく、そんな場も機会も失われて
きました。

社会性の基礎となるべきものが
自然に身につくことは困難となってきた。

学校では、どうだろうか？

家庭・学校現場を取り巻く状況

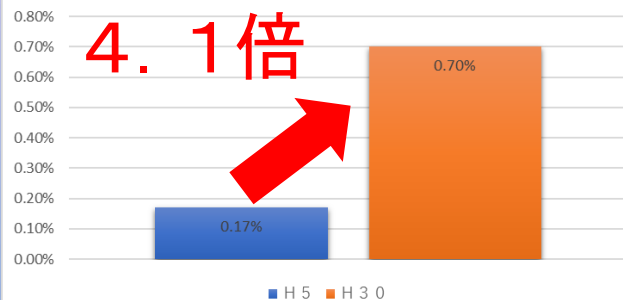
通級による指導を受けている児童生徒数の推移(公立小・中学校合計)



- 小中学校で、障がいに応じた特別な指導(通級指導)を受ける子どもが増加

発達障がいの診断を受ける子どもの増加
特別支援学校・特別支援学級の子どもの微増
→普通学級に障がいのある子どもが増加

小学校の不登校児童割合



中学校の不登校生徒割合



- 不登校の子どもの割合が増加

この他にも
学力格差の広がり
愛着障がい
ゲームのしすぎ 等

家庭・学校現場をとりまく課題は複雑化・多様化

◎学校や教員の仕事は拡大し、多様化している

かつての学校の役割

授 業

生徒指導

部活動

学校行事

〈学校の役割拡大による業務量増〉

- ◆ 家庭・地域の環境・教育力低下
- ◆ 児童生徒への指導の困難化
- ◆ 保護者対応の増加
- ◆ グローバル化・知識基盤社会化に伴う新しい教育への対応
- ◆ 説明責任の増大

現在の学校の役割

授 業

環境教育
情報教育
消費者教育
小学校英語 etc.

生徒指導

部活動

学校行事

心理・福祉面の支援

通学路の安全確保

学校外での生徒指導

保護者対応

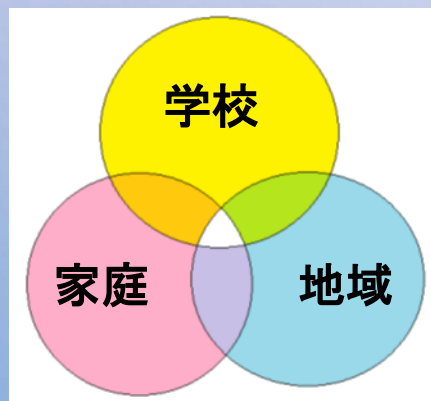
特別支援教育

学校評価・外部への説明責任

さらに、
道徳・外国語の教科化
プログラミング学習
GIGAスクール構想
新型コロナウイルス対応

そうした背景の中、「目指す子ども像」を学校と地域が共有し、一体となって子どもたちの成長を支えていくことが求められています。

日吉津村では、「**地域とともにある学校づくり**」のために、令和3年度からの「コミュニティ・スクール」導入を目指して準備してきました。



それぞれの立場を生かして育てていきたい

学校も大切！

家庭も大切！

地域も大切！

求められるものとは・・・

- ◆こらからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない地域・経験・能力）
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換



学校と地域の連携・協働が必要

コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクールとは、地域の力を学校運営に生かすために、教職員や保護者代表、地域住民の代表からなる「学校運営協議会」を設置する学校のことです

学校運営協議会とは

法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことです

学校運営協議会の主な3つの役割

(「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5)

- ①校長が作成する学校運営の**基本方針を承認**すること
- ②**学校運営について**、教育委員会又は校長に**意見を述べる**ことができる
- ③教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として

学校(コミュニティ・スクール)

学校運営協議会

学校運営・その運営に必要な
支援に関する協議など



地域と目標やビジョンを共有

地域学校協働活動

委員として参画



地域学校協働活動
推進員

人材・活動などの
コーディネート

地 域

地域学校協働本部



学校と
目標やビジョンを
共有



コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み

